



「うちの取組」

— 東北大学女性研究者誕生 100 年、

次なる 100 年にむけて—



振興調整費



第 4 号

東北大学大学院医工学研究科教授

東北大学女性研究者育成支援推進室 副室長

田中真美

東北大学女性研究者育成支援推進室 助 手

橋爪 圭

1. 東北大学の概要と歴史

東北大学は、日本で三番目の帝国大学として、1907年(明治40年)に創設された東北帝国大学を前身とした大学で、「研究第一主義」「門戸開放」「実学尊重」の3つを大学理念としています。特に、1913年には我が国の大学として初めて女性に門戸を開いたという輝かしい歴史があります。

2. 人員の内訳

常勤教員総数 2,633 人(平成 20 年 5 月 1 日現在)のうち、女性教員は 218 人(全体の約 8.2%) となっています。

3. 男女共同参画の取組

東北大学では、学内における男女共同参画の推進に向けて東北大学宣言(平成 14 年)、男女共同参画シンポジウムの開催、男女共同参画奨励賞の創設、アンケートによる実態調査活動、学内保育園の開園(平成 17 年)など、男女格差の是正、研究・労働環境の改善、両立支援体制の確立・充実などに全学を挙げて努めてきました。

平成 18 年度には文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業として「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」が採択され、平成 20 年度までの 3 年間、自然科学分野における女性科学者のキャリアパス形成にとって、障害となっている様々なハードルを乗り越えるための諸制度を整備することを目指して、学内に「女性研究者育成支援推進室」を設置し、下記の 3 つのプログラムを展開しました。

- ① 育児・介護支援：支援要員制度、ベビーシッター利用料補助制度、育児のための短時間勤務制度

- ② 環境整備：病後児保育室の拡充、自然科学系部局への女性用休憩室の設置
- ③ 次世代支援：総長よりサイエンスエンジェル（SA）に任命された自然科学系の女子大学院生たちが、小中高校等へ出張セミナーを行い、市民向けの実験教室などを実施する SA 制度。

支援要員制度では 3 年間に延べ 39 名が利用し、この制度とともに、ベビーシッター利用料補助制度ならびに育児のための短時間勤務制度等の利用により、育児によって諦めなければならなかった研究も継続可能となり、研究業績の向上、表彰、延いては昇進へつながるケースもありました。このように、優秀な人材が研究を断念せず継続できる制度として定着し、育児中の研究者を支援しています。

病後児保育室は全学の教職員、学生利用が拡充され、代理では対応が困難な業務や実験等と子どもの病気が重なった際の救済措置として好評を得ており、年間約 300 名以上が利用しています。また、女性用休憩室は、事業期間内に自然科学系全部局への設置を完了しました。

次世代支援の SA 制度では、事業期間内で 141 名のサイエンスエンジェルを輩出し、小中学生・高校性などへの身近なロールモデル、サイエンスエンジェル同士の使命感・責任感の醸成、異分野交流に役立ち、学内外における双方向の次世代の女性研究者の育成の一端を担っており、これらの取り組みによって、女性の新規採用教員の比率は平成 16 年度の 7%から平成 20 年度には 14%へ増加しました。ハードリング支援事業は振興調整費としての事業終了後も、学内経費により上記 3 プログラムを継続しています。

4. 「杜の都ジャンプアップ事業 for 2013」の取組

東北大学の男女共同参画意識向上と環境整備は着実に進展していますが、さらなる課題解決のためには一段と進んだ行動が必要であり、モデル事業で達成された優れた独自制度をさらに展開し、女性研究者比率の格段の向上とその養成を達成することが不可欠であると認識されました。本年度開始された科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」事業に応募し、「杜の都ジャンプアップ事業 for 2013」（平成 21-25 年度）として採択されました。

ジャンプアップ事業では能力・職階のジャンプアップを図り、世界をリードする広い学問領域を見渡せる「自立し、共生し、未来を育み、サイエンスを拓く杜の都女性研究者」を育成します。理学系、工学系、農学系の分野において 5 年間で 30 名の新規採用を目標とし、新規採用女性研究者には研究スタートアップ経費などの研究費が採用後 3 年間付与されます。既在籍女性教員の養成に対しても、国際会議、国内会議、共同研究等の参加及び論文校閲費にかかるスキルアップ費用を支援します。また具体的には以下の 3 プログラムを実施します。

- ① 沢柳フェローとして任命された女性教授をメンターに充当。各研究分野を熟知している部局メンターも充当し、複数メンター養成体制を確立。世界で活躍中の Distinguished professor による能力アップセミナーの定期開催。
- ② 女性研究者用情報共有・発信用 WEB ネットワークシステムを構築し、積極的に女性研究者とその研究を外部へ発信。
- ③ 女性研究者の研究スタイル確立のためのワークライフバランス支援及び男性も含めた全学の男女共同参画意識の啓発・醸成。

今年度は、3名の新規採用や部局メンター制度の確立、スキルアップ支援公募を行っています。またキックオフシンポジウムや各種セミナーを開催しました。特に、第1回世界トップクラス研究リーダー養成用セミナーでは、学外講師として多くの女性研究者の憧れであるマリキュリーの孫娘であるランジュバン＝ジョリオ博士を招致し講演会を開催しました。このような講演会やセミナーによるシームレスな教育システムを構築し、個々のジャンプアップへつながるような養成改革加速事業として展開しています。

<支援などに対する声>

(支援要員制度)

産育休中にもメールや電話で支援要員に指示をだすことにより、研究を推進することができるため、休暇取得に対し上司の理解を得やすかった。また、生まれた子供に先天性心疾患があり極端に体の弱い子供であったため、長時間の勤務が難しく一時は離職も考えたが、産育休中と同様にメールや電話の指示で研究を進めることができ、何とか持ちこたえることができた。その後、子供の手術が成功し、少しずつ勤務時間を長くできるようになった。支援要員制度のおかげで仕事を続けることができ、大変感謝している。(Sさん 助教)



(サイエンス・エンジェル制度)

科学イベントに参加した際に多くのことを学んだ。計画することの重要性、人にもものを教えることの楽しさと大変さ、そして何よりみんなで1つの大きなものを成し遂げたときの達成感の大きさを改めて実感することができた。また、研修会を通じて現状の男女共同参画について学ぶこともでき、女性研究者としての将来の自分の在り方などを考える良い機会となった。今後も、様々な活動に参加しさらなる自己成長に繋げていきたい。

(Nさん 大学院修士課程1年)

東北大学女性研究者育成支援推進室：<http://www.morihime.tohoku.ac.jp/index.html>

【執筆者の紹介】

田中 真美 (たなか まみ) 氏

<最終学歴>

東北大学工学研究科 (工学博士)

<現 職>

医工学研究科 教授

橋爪 圭 (はしづめ けい) 氏

<最終学歴>

東海大学海洋学研究科 (理学修士)

<現 職>

東北大学女性研究者育成支援推進室 助手